令和３年　１１ 月　 ３０日

令和３年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，令和３年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和3年5月27日（木）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　４７人	算数　４７人	理科　４７人
第５学年	国語　３６人	算数　３６人	理科　３６人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

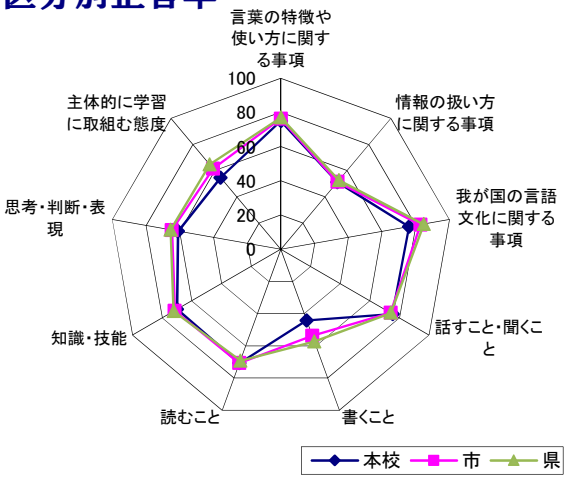
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	51.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.1	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	75.4	74.1	74.2
	書くこと	44.2	53.7	57.2
	読むこと	70.7	70.7	69.2
観点	知識・技能	70.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	61.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取組む態度	54.8	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

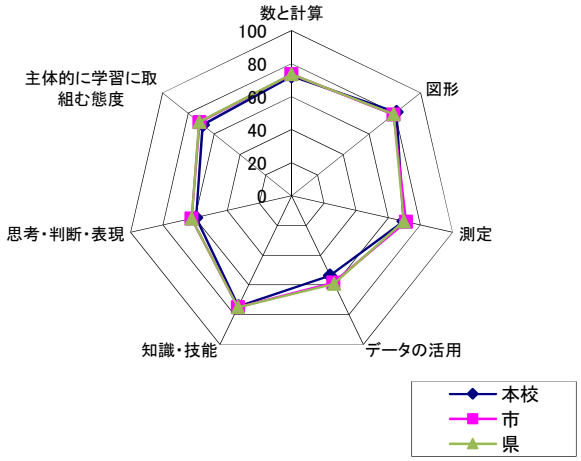
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・領域全体の平均正答率は，市の平均よりも1.4ポイント低い。 ●熟語読みの正答率が，市平均よりも19.2ポイント低い。 ○文の構成（主語と述語）についての問題の正答率は，市の平均より16.1ポイント高い91.3%で，よく理解できている。	・漢字に関しては，今までの漢字の復習を行う中で，単体で練習をするのではなく，特別な読み方にも触れていく。また，文章を書く活動で，既習の漢字や熟語を使えているか丁寧に添削を行い，定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	・領域全体の平均正答率は，市の平均との差が0.1ポイントで，同程度である。 ○国語辞典の使い方に関する問題の正答率が，市平均より12.1ポイント高い。 ●情報と情報の関係について理解して文章を要約する問題の正答率が，市平均よりも9.5ポイント，理由を明確にして書く問題の正答率が，市の平均より2.7ポイント低く，与えられた情報を元にまとめることへの課題が見られる。	・国語辞典を身近に置き，初めて出会う言葉や分からない言葉をすぐに調べることを継続して行う。 ・国語で説明文を読んだ際には，類似文の要約を取り入れたり，振り返り等で理由を明確にして書くよう指導したりして，様々な形でまとめる力を伸ばしていく。
我が国の言語文化に関する事項	・領域全体の平均正答率が，市の平均より6.7ポイント低い。 ●漢字を構成要素ごとに捉えておらず，へんとつくりの混同が見られる。	・新しい漢字を学習する際には，身近に置いた国語辞典・漢字辞典を活用して，自分で言葉を調べたり，同じへんの漢字を既習事項から集めたりする活動を充実させ，漢字の構成等に関心を広げられるようにする。
話すこと・聞くこと	・領域全体の平均正答率は，市の平均よりも1.3ポイント高い。 ●話の中心は押さえているが，話し手の工夫によって明確化される内容についてはしっかりと捉えられていない。 ○相手に伝わるように，理由を挙げて自分の考えを記述する問題がよくできている。	・話を最後まで聞き取ることができるよう，学習形態を工夫し，少人数で話したり，聞いたりする活動を取り入れる。 ・話合い活動の際，必要な内容をもらさず聞き取るために，メモ等取りながら聞く活動を取り入れる。
書くこと	・領域全体の平均正答率は，市の平均より9.5ポイント，県の平均よりも13ポイント低い。 ●特に指定された長さで書く問題が25.4ポイント，2段落構成で書く問題が15.1ポイント市平均よりも低く，県の平均よりはいずれも20ポイント以上低くなっている。	・内容を整理したり文字数が制限されていたりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので，国語の授業等で，要約したり，条件を付けて作文を書いたりする練習をしていく。 ・日記や作文指導に継続して取り組んだり，目的意識をもって条件付きの文章を書く機会を設けたりするなどして，日常的に書く活動を増やしていく。
読むこと	・領域全体の平均正答率は，市の平均と同等，県の平均よりも1.6ポイント高い。 ○登場人物の気持ちを叙述を基に捉える問題では，正答率9割以上と高い。また説明文の大まかな内容を捉える問題も正答率が高い。 ●文章の中から大事な言葉を見付け，それらをつなぎ合わせたり，要約する問題の正答率が，市の平均よりも9.5ポイント低い。	・説明文で段落の内容まで読み取る活動をしっかりと行っていく。 ・文章の中から大事な言葉を見付け，それらをつなぎ合わせたり，要約したりする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立岡本小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.4	73.5	73.6
	図形	81.2	79.0	79.1
	測定	69.6	71.1	69.8
	データの活用	53.6	58.4	59.2
観点	知識・技能	74.3	75.0	75.0
	思考・判断・表現	59.3	62.1	62.1
	主体的に学習に取組む態度	68.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

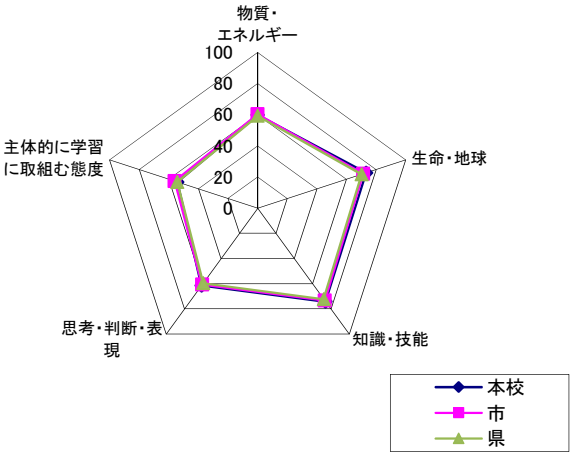
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の正答率は市の正答率よりも1.1ポイント，県の正答率よりも1.2ポイント低い。 ○小数の仕組みについての正答率は90%を超えており，よく理解している。 ○計算の問題については，足し算，引き算，かけ算，わり算とも市の正答率とほぼ同じか上回っている。 ●かけ算のひっ算に出てくる数の意味の理解や，工夫した計算のしかたの説明の正答率が低い。特にかけ算の筆算に出てくる数の意味の理解については，市の正答率より9.9ポイント下回っている。 ●小数の相対的な大きさに関する問題の正答率は76.1%で，市の正答率より9.4ポイント低い。	・計算技能はよく習得できているが，小数の相対的な大きさの理解や，工夫して計算すること，それを説明することなど，深い理解には至っていない。今後は，習熟度別学習の中で，考える活動を意識的に多く取り入れていく。
図形	・領域全体の正答率は市の正答率よりも2.2ポイント，県の正答率よりも2.1ポイント高い。 ○概ねよくできている。特に正三角形の作図については91.3%と高い正答率を示しており，市の正答率より3.2ポイント上回っている。	・今後も具体物の操作や実際の作図等，体験的な学習を積極的に取り入れる活動を継続的に行い，授業の充実を図ることで，理解の定着に努める。
測定	・領域全体の正答率は市の正答率よりも1.5ポイント，県の正答率よりも0.2ポイント低い。 ○道のりの意味の理解については，81.9%と高い正答率を示している。 ●単位の前に「k」がつくと1000倍になることの説明については，正答率が52.2%と低く，市の正答率より4ポイント下回っている。	・単位換算については，苦手意識を持つ児童が多いと思われるため，練習問題等に数多く取り組む機会を設けることで，理解の定着を図る。
データの活用	・領域全体の正答率は市の正答率よりも4.8ポイント，県の正答率よりも5.6ポイント低い。 ●複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る問題に関しては，正答率が50.0%と低く，市の平均正答率よりも6.4ポイント低い。	・聞かれていることに対して正しい解答の仕方を十分に理解していない児童が多い傾向があるので，「どんなことを聞かれていて，どのように答えればよいのか」を事前に意識してから問題を解くような活動を取り入れ，正確に解答できるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.8	60.2	59.2
	生命・地球	73.2	71.3	70.3
観点	知識・技能	74.2	73.4	72.3
	思考・判断・表現	61.4	60.6	59.6
	主体的に学習に取組む態度	54.3	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は，市の平均とほぼ同じである。 ○鏡の枚数を増やして光を重ねた部分の明るさと温度の様子を指摘することが，平均正答率100%と，よくできている。普段から実験結果をしっかり見取り，記録する指導を続けている成果と考えられる。 ●磁石につくものとつかないものの理解についても，43.5%と正答率は低い。電気を通すものを問う問題には，97.8%の児童が正解を出していることから，電気を通すものと磁石につくものを混同している児童がいるものと考えられる。	・実験の際には，結果をしっかり確認するとともに，既習の内容と比べたり，身近な現象と重ね合わせたりしながら，実験結果から何が分かったのかを振り返って言葉で表現する活動を増やし，より確実な理解へと導けるようにする。 ・単元や実験のまとめの段階では，まとめに必要な言葉を児童から出させ，それを基に児童一人一人が自分の言葉で考察を書く活動を増やしていくことで，学習内容を明確にし，確実な理解へと繋がるようにする。また，大切な言葉は，カードなどを使って，音声，視覚両面から単元内や関連する他の単元で，繰り返し意識させ，理科用語の習得を図る。
生命・地球	・平均正答率は，市の平均より1.9ポイント高い。 ○完全変態と不完全変態の昆虫の理解は，宇都宮市の平均正答率より12ポイント高い87.0%とできている。 ●虫めがねの正しい使い方を問う問題の正答率が34.8%と低く，市の平均55.6%よりも20ポイント以上も低く課題が見られる。 ●設問2の植物の育ち方では，ほうせんかなどの植物の育つ様子は理解しているが，それをグラフなどに関連付けることが苦手である。	・昆虫への興味関心が高い様子が見られるので，機会があるごとに話題に取り上げるなどして，引き続き身近な生き物に目を向けさせ，その特徴や生態を意欲的に調べていけるようにしていく。 ・虫眼鏡の使い方については，昨年度の新型コロナウイルス感染症による臨時休校があり，十分な指導の下に観察を進めることができなかったため，テレビなどから無意識に入る間違った概念が結びついたままになっていることが考えられる。今後，観察の際には，意図的に虫眼鏡を使用させ，正しい使い方の定着を図りたい。 ・グラフから数値を読み取って設問に回答することができていないので，今後もグラフや図を正確に読み取ることができるように指導する。

宇都宮市立岡本小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学ぶ意欲に関わるものとして，「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」との質問に対する肯定的回答が95.8%で県平均よりも15.3ポイント高い。また，『勉強していて，「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある』との質問に対する肯定的回答が95.7%で県平均よりも16.8ポイント高く，「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」との質問に対する肯定的回答が78.7%で県平均よりも14.4ポイント高い。今後も教材や発問を工夫し，児童の学習意欲を引き出しながら，分かったという実感を伴う授業を展開していく。

○授業に関わるものとして，「授業では，自分の考えを発表する機会が与えられている」との質問に対する肯定的回答が89.4%で県平均よりも12.8ポイント高く，「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」との質問に対する肯定的回答が89.4%で県平均よりも9.4ポイント高い。今後も主体的・対話的な学習活動になるよう教材や発問を工夫し，児童が自身の考えを自分の言葉でまとめられるように支援し，学習内容の理解がさらに深められるよう支援する。

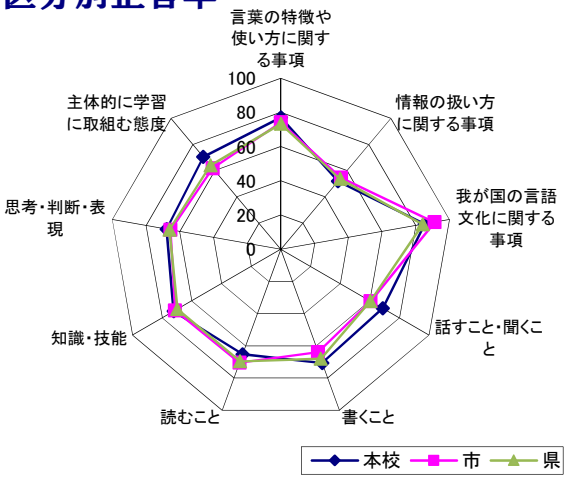
○自分自身のことに関わるものとして，「自分には、よいところがあると思う」との質問に「はい」と回答した児童は68.1%で県平均よりも20.7ポイント高い。また、「自分の行動や発言に自信をもっている」の質問に対する肯定的回答が78.7%で県平均よりも17.1ポイント高い。自己肯定感が高い学校の特色が今年度も見られた。今後も授業や学級活動，児童会活動を通して，褒める・勇気づける支援を心掛け，家庭や地域と連携しながら，自己肯定感を醸成していきたい。

●毎日の生活に関わるものとして，「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」との質問に3時間以上と回答した児童は42.6%で県平均よりも12.7ポイント高い。一方で，「ふだん，1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」との質問に，1時間未満と回答した児童は53.2%で県平均よりも16.7ポイント高く，携帯電話やスマートフォンを持っていない児童は78.7%で県平均よりも30.5ポイント高かった。今後携帯電話やスマートフォンの所持や，一人一台端末の持ち帰りが始まることによっての長時間使用を避けるために，今のうちから機器の使用方法について注意事項を指導し，本や新聞に親しむ機会がさらに増えるよう，授業などを通してそれらに触れる機会を設ける必要がある。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.1	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	52.0	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	85.3	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	68.8	60.6	60.4
	書くこと	70.6	63.8	68.0
	読むこと	65.2	70.4	69.6
観点	知識・技能	72.3	71.3	69.9
	思考・判断・表現	67.8	65.4	66.1
	主体的に学習に取組む態度	70.6	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

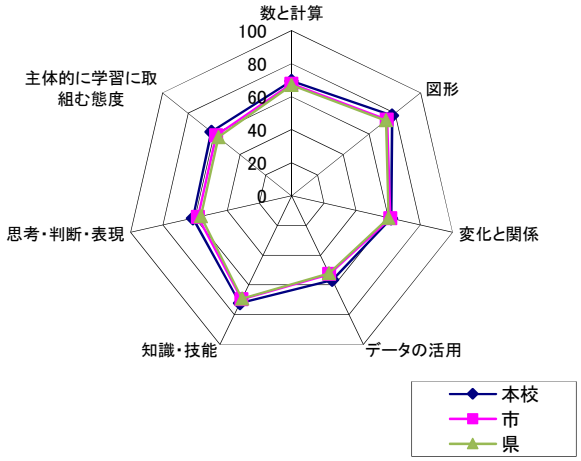
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・領域全体の平均正答率は，市の平均より2.9ポイント高い。 ○漢字の読みについては，すべての問題において，正答率90%を上回っている。 ○漢字単体を書く問題では，市の平均を15.2ポイント上回っている。 ●送りがなをつける問題は，市の平均より11.6ポイント低く，定着が不十分である。	・漢字に関しては，今までの漢字の復習を行う中で，単体で練習をするのではなく，熟語として様々な読み書きに触れていく。また，文章を書く活動で，既習の漢字や熟語を使えているか丁寧に添削を行い，定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	・領域全体の平均正答率は，市の平均よりも2.7ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方に関する問題の正答率が，市の平均よりも5.6ポイント低い。	・漢字辞典を身近に置き，分からない漢字や成り立ちなどをすぐに調べる習慣を身に付け，漢字辞典の活用を図る。
我が国の言語文化に関する事項	・領域全体の平均正答率は，市の平均より5.9ポイント低い。 ●意味を考え，ことわざに置き換える問題では，85%の児童が正解だったが，不正解の選択肢すべてに均等に回答した児童がおり，意味を考えるのではなく，勘で答えている傾向が見られる。	・読み聞かせやスピーチ等の活動を積極的に取り入れ，様々な言い回しやことわざ・熟語等に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	・領域全体の平均正答率は，市の平均よりも8.2ポイント高い。 ○話し手の工夫に着目したり，相違点から自分の考えを表現する問題の正答率が高い。 ●話の中心を捉える問題の正答率が，市の平均よりも9.6ポイント低い。	・引き続き，教育活動全般において，自分の考えを表現する機会を多く取り入れる。 ・様々な教科の学習形態を工夫し，少人数で話したり，クラス全体で話し合ったりする話し合い活動を積極的に取り入れ，話の中心を考えながら聞いたり，まとめたりする機会を増やしていく。
書くこと	・領域全体の平均正答率は，市の平均より6.8ポイント高い。 ○自分の考えを理由や事例との関係を明確にして書く問題では，市平均を9.8ポイント上回っている。	・内容を整理したり文字数が制限されていたりと複数の条件を意識して文章を書くことには慣れていない様子が見られるので，国語の授業等で，要約したり，条件を付けて作文を書いたりする練習を続けていく。
読むこと	・領域全体の平均正答率は，市の平均よりも5.2ポイント低い。 ●特に，説明文の叙述を基に文章の内容を捉える問題が，市の平均を16.6ポイント下回っており，内容を捉える力の定着が不十分である。	・文章の中から大事な言葉を見付け，それらをつなぎ合わせたり，要約したりする活動を多く取り入れ，内容を捉える力の定着を図る。 ・様々な教科で，内容を簡単に説明する活動を取り入れる。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.6	67.8	67.0
	図形	77.9	73.9	73.1
	変化と関係	61.8	61.4	60.2
	データの活用	56.6	52.7	52.1
観点	知識・技能	72.2	69.7	69.2
	思考・判断・表現	61.3	58.1	56.3
	主体的に学習に取組む態度	62.2	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

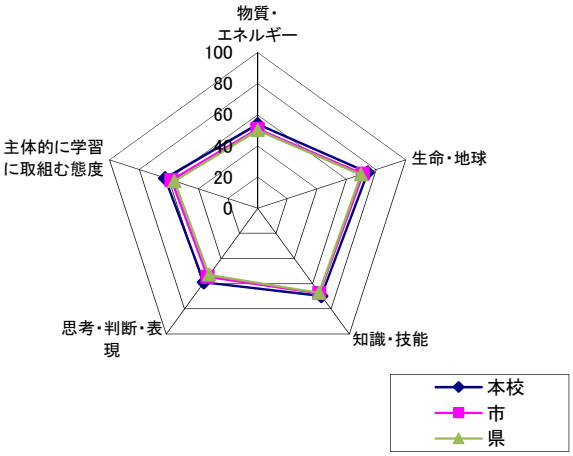
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の正答率は市の正答率よりも1.8ポイント，県の正答率よりも2.6ポイント高い。 ○小数や分数のしくみの理解については高い正答率を示しており，数直線上に示された分数の読み取りに関する問題については，市の正答率より，14.6ポイント上回っている。 ○数量の関係を割合を使って説明する問題の正答率は市の正答率より，16.2ポイント高い。割合を比較して説明する問題は，正答率が低い。 ●基準量と比較量から求めた割合を比較して，どちらの包帯がよく伸びるのかを説明する問題の正答率は，41.2%と低く，記述式の問題に課題が見られる。	・問題文から「もとにする量」「比べられる量」を確実に読み取り，それを数直線等に図式化する活動を多く取り入れ，理解の定着を図る。
図形	・領域全体の正答率は市の正答率よりも4ポイント，県の正答率よりも4.8ポイント高い。 ○長方形や複合図形の面積を求める問題の正答率は90%を超えている。 ○ひし形を作図する問題の正答率は91.2%で市の正答率を11.1ポイント上回っている。 ●1000円札のおよその面積を選ぶ問題の正答率は38.2%となっており，身の回りの身近なものと結びつけてその数量を考えることに課題が見られる。	・イメージの図式化や，数量の感覚を養う活動を多く取り入れ，実生活の中で具体的に活用できるような学びの充実を図る。
変化と関係	・領域全体の正答率は市の正答率よりも0.4ポイント，県の正答率よりも1.6ポイント高い。 ○伴って変わる二つの数量の値を求める問題は，正答率が97.1%で市正答率より8.9ポイント高い。 ●数量の関係を式に表す問題の正答率は35.3%で市の正答率より3.8ポイント低い。	・活用的な問題を解く際には，問題の中身を整理し，細かく分けて段階的に考えたり，図式化して考えたりする活動を通して，解答の仕方に慣れることができるようにする。 ・数量関係を式に表すことは児童にとって難易度の高い学習であるが，日常生活の中でも伴って変わる量に目を向けられるようにしたり，理科や社会の学習のなかでもグラフを描いたりするなどして，定着が図れるよう繰り返し指導する。
データの活用	・領域全体の正答率は市の正答率よりも3.9ポイント，県の正答率よりも4.5ポイント高い。 ○折れ線グラフを読み取ることは，市の正答率より12.2ポイント上回っている。 ●折れ線グラフと棒グラフの2つのグラフの読み取りは，市の正答率より7.1ポイント下回っている。	・算数の時間だけではなく，社会科のグラフ資料の読み取りなども意識的に算数的な思考で読み取るなどして，理解の定着を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.9	50.8	50.0
	生命・地球	74.3	71.1	69.8
観点	知識・技能	69.7	67.6	67.2
	思考・判断・表現	58.8	54.5	52.9
	主体的に学習に取組む態度	62.4	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は，市の平均より3.1ポイント高い。 ○実験の結果をもとに，手作りの噴水の原理を推測することは平均正答率64.7%と，市の平均正答率49.9%よりも14.8ポイント高くよくできていた。実験を行う前には，結果の予想を根拠と共に図や言葉で表現し，実験後は，それを結果と照らし合わせて考察を行う学習活動を繰り返し行ってきた成果が表れたものと思われる。 ●実験の結果から，空気のほうが水よりも体積変化が大きいことを問う問題の平均正答率が44.1%と低い。しかし，同様の内容である，空気，水，金属の温度による体積変化の大きさの順を問う問題の平均正答率は52.9%となっており，二つの問題に矛盾した解答をした児童も全体の4分の1いるため，内容の定着不足だけではなく，問題文の読解が十分にできていないことが課題であると考えられる。	・引き続き，理由を明確にしながら予想，実験，結果，考察という過程を大切にした指導を続けていく。 ・繰り返し学習内容の復習を行い確実な定着を図るとともに，問題文の読解の仕方，解答の仕方についても単元のまとめの段階で，とちぎっ子の過去の問題を利用して丁寧に指導し，習得した学習内容が調査の正答につながるように指導をしていく。 ・実験を通して得られた概念を教科書掲載の実験や理科の授業のみで使用するのではなく，身の回りの他の現象にも当てはめて考えたり，実証実験を行ったりすることで，学習したことを体験していない実験にも当てはめて考えられるようにする。
生命・地球	・平均正答率は，市の平均より3.2ポイント高い。 ○1年間の動物の様子や植物の成長を問う問題がよくできており，4問ともそれぞれ市の平均正答率より8ポイント以上高い。これは，観察の視点を大切にしながら授業を進めた結果と思われる。 ●月と星の満月の見える方位や満月の1日の動きのを問う問題の平均正答率が5割程度と課題が見られる。	・引き続き観察の際には調べたり，比較したりする視点を明確にして取り組ませるようにし，目標に照らし合わせて，振り返りをしっかりさせるようにする。 ・月の家庭での観察の際は，方位や高度，形など調べるべき視点を事前にきちんと指導するとともに，観察してきた記録を時間を置かずに取り上げ，児童が興味関心を持続させながら継続的に観察を行えるようにする。また，時期を狙って昼間の月を全体で観察し，個人の観察結果と比較しながら，天体の動きについての理解を深めていけるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学ぶ意欲・授業に関わるものとして，「自分は勉強がよくできる方だと思う」との質問に対する肯定的回答が70.6%で県平均よりも17.1ポイント高い。また，「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」との質問に対する肯定的回答が91.2%で県平均よりも11.3ポイント高く，「難しい問題に出うと、よりやる気がでる」との質問に対する肯定的回答が61.8%で県平均よりも7.2ポイント高い。今後も教材や発問を工夫し，児童の学習意欲を引き出しながら，分かったという実感を伴う授業を展開していく。
○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」との質問に対する否定的回答が53.0%で県平均よりも11.8ポイント高く，「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」との質問に対する肯定的回答が64.7%で県平均よりも16.1ポイント高い。今後も主体的・対話的な学習活動になるよう教材や発問を工夫し，児童が自身の考えを自分の言葉でまとめられるように支援し，学習への自信をさらに深められるよう支援する。

○自分自身のことに関わるものとして，「自分には、よいところがあると思う」との質問に「はい」と回答した児童は79.4%で県平均よりも34ポイント高い。また、「自分の行動や発言に自信をもっている」の質問に対する肯定的回答が73.5%で県平均よりも15.3ポイント高く，「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の質問に対する肯定的回答が100%で県平均よりも9.1ポイント高い。
○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の質問に対する肯定的回答が70.6%で県平均よりも11.3ポイント高く，「だれに対しても、思いやりの心をもってせっしている」の質問に対する肯定的回答が70.6%で県平均よりも5ポイント高い。今後もクラスでの係活動や当番活動に積極的に取り組ませ，目標を設定し達成感が味わえる活動を行い，授業でも自信が持てる活動を積極的に取り入れていく。

●読書に関わるものとして，「1か月に、何さつくらい本を読みますか」との質問に対し全くしないと回答した児童は17.6%で，県平均よりも10.8ポイント高い。また「学校の授業時間以外に，平日，1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」との質問に対し全くしないと回答した児童は29.4%で，県の回答より13.5ポイント高く，「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」との質問に3時間以上と回答した児童は41.2%で県平均よりも12.0ポイント高い。今後は，授業と関連する本を紹介したり，朝の学習などで読書をする時間を確保したりするなど，読書への興味を引き出し，本と触れる機会を多くする取り組みに努める必要がある。

宇都宮市立岡本小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自分の学びに気付き，主体的に課題解決に向かう工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い，課題は何か，何をどのように学んだのかに気付けるようにする。 また，児童の興味関心を高める導入を工夫し，課題解決の見通しを持って学習の取り組むことができる工夫をする。	「授業の中で目標が示されてる」に対する肯定的割合は，4年生が93.6%で県の平均より，7.5ポイント高く，5年生は85.2%で県の平均より5.7%低い。「授業で扱うノートには，学習の目標とまとめを書いている」に対する肯定的割合は，県の平均とほぼ同じである。 「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある」「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」に対する肯定的割合は，4・5年生とも県の平均を上回っている。 4・5年生ともに，問題文を読み，その中で示されている条件を捉えて，条件通りに正しい答えを出すことに誤答が見られる。
自信をもって学びに向かう児童の育成	自分の考えを言語化して交流することができるよう，学習形態を工夫したり，ICT機器を効果的に活用したりする。 また，授業の最後に，本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行う。	「授業では，自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的割合は，4・5年生とも県の平均を上回っている。 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答している児童が，4年生では61.7%，5年生では47.1%おり.，4年生の国語科の記述式問題は，県の平均正答率より，20ポイント以上低くなっている。 「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をしている」に対する肯定的割合は，4年生が65.9%，5年生が85.3%であった。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から，各教科に関する共通する課題として，教科の重要語句を使用して，文章で理由などを説明する問題や，長文や複数の資料の中から重要語句の意味を正しく捉えて考える問題，また，説明文内容を捉え，要約するなどの正答率が平均より低い傾向がある。	各学年，各教科で言葉の特徴やきまり，教科の重要語句に重点を置いた指導を行い読む力を育てる。既習の語句を繰り返して取り上げ，自分の考えを書いたり，説明したりするなどの言語活動を，教科横断的に取り入れる。	どの教科においても，国語辞典や漢字辞典，ICT機器などを活用し，語彙の意味を理解しながら読み，語彙の量を増やすとともに，重要語句使った文章を書く活動を取り入れ，語彙の使い方を理解し語彙の質を高める。 また，授業内容に関連する「パワーアップシート」や「復習教材」「過去問題」を適宜取り入れ，様々な問題を解く機会を意識して設ける。